



櫻井錠二の学術振興に関する資料目録

山中, 千尋
稲垣, 成哲

(Citation)

神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 4(2):129-142

(Issue Date)

2011-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81002991>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002991>



櫻井錠二の学術振興に関する資料目録

Making Dr. Joji Sakurai's Archives on His Activity for the Promotion of Science

山中 千尋* 稲垣 成哲**

Chihiro YAMANAKA* Shigenori INAGAKI**

Abstract : This report presents the archives of Dr. Joji Sakurai on his activity for the promotion of science. He collected papers and manuscripts when he was the member of the Imperial Academy (*Teikoku Gakushi In*) and the director of Japan Society for the Promotion of Science (JSPS). With great understanding of contributors, the authors could examine the posthumous documents one by one, resulting in the chronological lists by each organization. As the collection include unpublished works and several noteworthy materials concerning formation of JSPS, the authors regard the archives could facilitate further historical research and are also useful for making the compilation of the other Sakurai collections dispersed in Japan.

1. はじめに

本稿では、日本近代化学の先駆者と言われる櫻井錠二(1858-1939; 以下、櫻井)が第一次大戦期から昭和初期にかけて学術振興機関設立などの活動を大規模に展開したことに関し、その証拠となる諸資料および関連人物の整理と検討を行う。

櫻井については、いくつかの先行研究があるが、それらはいずれも化学者としての業績を示したものである(例えば、阪上, 1979; 廣田, 1988; 菊池, 2004)。しかし、櫻井は日本学術振興会を創設し初代理事長を務めた人物であり、櫻井が遺した『思い出の数々』(1940)を参照すると、学術振興関連の活動が多く見られる。つまり、櫻井の功績は化学という純粋な学問上でのものよりも、むしろ学術振興という研究支援あるいは科学行政における功績を評価される可能性がある。その評価を検討する手段として、本稿において櫻井関わった学術振興組織に関する資料を整理することは有用であろう。

2. 日本学士院および日本学術振興会所蔵の櫻井関係諸資料

櫻井の遺品資料については、遺族によって1970年代後半(昭和50年代初頭)にその一部が石川県立歴史博物館に寄贈され、阪上(1979)によって整理されている。しかし、その後発見された遺品資料は、2001(平成13)年ごろから国立科学博物館、日本学士院、日本学術振興会など国内各地に分散して寄贈され、さらに櫻井が在職していた東京大学にも伝承された遺品資料が残されているため、

それら資料の体系的なリストはない。しかし、今回筆者らは日本学士院(以下、学士院)と日本学術振興会(以下、振興会)の厚意により、両機関所蔵となった寄贈資料を閲覧することができた。そのため、櫻井関係の諸資料としては一部であるが、両機関所蔵の資料について解説し、明確な整理基準として年代順に並べコード番号を附すこととした。またそのリストには日付・資料名・資料形態等の項目を加えて、日付の不明なものや一部不明なものについては、その旨を記して、各機関概要が掲載されている日本学士院(1962)『日本学士院八十年史 本編』および日本学術振興会編(1998)『日本学術振興会30年史』を参考にしながら、筆者らの判断で並び替えを行った。本資料の一覧は所蔵機関別に2つの表にまとめ、表1に学士院所蔵の資料、表2に振興会所蔵を示した。コード番号については、所蔵あるいは関連機関を示すアルファベットと数字で示すこととした。また、本資料中から、とくに振興会の揺籃期における主要人物を検討するため、複数の資料から発起人と初期構成員を明らかにし、表3に示した。

次に、各表における主な資料について説明していく。

2-1. 日本学士院

学士院所蔵資料(表1)については、帝国学士院・学術研究会議・第三回汎太平洋学術会議の3つの組織の関連のものがあつたため、組織別に分類し年代順に並べた。コード番号は、帝国学士院を表す「the Imperial Academy」の頭文字をとった「IA」と通番、学術研

* 神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士後期課程, 日本学術振興会

** 神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授

(2010年9月30日 受付)
(2011年1月7日 受理)

究会議の英語名「National Research Council」の頭文字をとった「NRC」と通番、第三回汎太平洋学術会議（The Third Pan-Pacific Science Congress）は国際会議（International Conference）であることから「intl.」という形で示した。

表1のように、学士院所蔵資料は帝国学士院関連が22点で1918（大正7）年～1938（昭和13）年の期間である。これらのうち、IA8～10, 15, 17～19, 22の帝国学士院における学士院賞授賞式（第16, 18, 20, 22～25回）の院長演説については、櫻井が学術振興の重要性や研究費の欠乏について述べたものが含まれている。また、IA12の国民新聞（1931.4.22付）は櫻井が天皇に学術振興に関する御進講を行うことについての記事で、IA13はその御進講「学術研究ノ振興」（同年4月30日）の手書原稿30頁である。

また、学術研究会議関連は19点で1920（大正9）年～1937（昭和12）年の期間である。NRC1「学術研究会議ノ設置ニ関スル建議案」とNRC2「大正九年度学術研究会議予算概算計算書」（櫻井手書き原稿）は、学術研究会議の設立に関わる資料であり、櫻井が同会議の設立に関わったことが明らかである。

第三回汎太平洋学術会議関連は12点で1896（明治29）年～1926（大正15）年の期間である。intl.1～6は第1回・第2回の国際会議の開催に関する資料であり、第3回汎太平洋国際会議の開催（1926年10月30日～同年11月11日）にあたり前回・前々回大会の開催概要と参加者を参考としたことがわかる。intl.7「第三回汎太平洋学術会議開催計画ノ大要」は櫻井の自筆で、同会議開催を文部省と連携・調整するための草案となったものと推定できる。intl.9は本会議のプロシーディングスであり、intl.11は閉幕翌日のJapan Timesの記事であり、同会議の開催の様子が記された資料である。

2-2. 日本学術振興会

振興会所蔵資料（表2）のコード番号は振興会の英語名「Japan Society for the Promotion of Science」の略称である「JSPS」と通番、と通番という形で示した。

表2のように、振興会所蔵資料は83点あり、1932（昭和7）年から1939（昭和14）年までの期間である。これらのうち、JSPS9から少なくとも2つの有志集団が関与して「学術産業振興院」「学術研究振興会」という仮称で準備にあたったことがわかる。

JSPS17～21については、1932（昭和7）年8月20日に天皇よりの下賜金150万円があったことに関する、公文書・文部大臣鳩山一郎と櫻井のコメント、翌日の新聞記事（東京日々新聞）である。

JSPS24「日本学術振興会ノ設立ニ就テ」は下記のような目次で構成されており、設立経過が示されている。

- 一、学術振興ニ関スル諸運動
- 二、帝国議会ノ建議
- 三、学術研究会議ノ建議
- 四、日本学術振興会設立運動
- 五、文部省ノ学術振興調査費
- 六、御下賜金
- 七、文部省ノ対策
- 八、日本学術振興会ノ設立
- 九、日本学術振興会ノ目的並ニ事業

十、備考（財団法人組織ニ関スル理由）

附録：学術研究振興会事業費補助要求額内訳

この附録にある事業費の合計額は250万円で、うち200万円が学術研究および同研究者の養成費としてあげられ、「人件的経費」や「物件的経費」などの経費項目と金額が記されている。その他予算関係については、JSPS29「日本学術振興会会計取扱手続」、JSPS31「昭和七年度日本学術振興会歳入歳出予定計算書」（櫻井の試算）に詳しく記されている。さらに、JSPS54「趣意賛同援助懇願書」とJSPS55「寄付金募集懇願書」は、寄附金を募るための書類であり、政府補助金以外に財源として寄附金を頼りにしていたことが伺える。寄附金については、大阪（JSPS52・53）、北海道（JSPS57）、九州（JSPS64～67）地方に櫻井らが出向いたり、地方長官を東京に招聘したりして（JSPS59～63）地方の有力者に運営支援について事業説明を含めて働きかけたことが括弧内に示した資料から伺える。

JSPS43～46とJSPS48～51、JSPS68は振興会に秩父宮を総裁として迎えるための奉戴式（昭和8年5月22日開催）の関連書類である。

JSPS73「晩餐会に於ける挨拶原稿」（1936（昭和6）年3月31日開催）には、2.26事件で死去した斎藤会長（総理大臣）の後任として廣田総理大臣が新会長として就任したことが記されている。

2-3. 日本学術振興会設立の関係者

表3については、資料JSPS27「日本学術振興会発起人名簿」およびJSPS28「日本学術振興会役員名簿」に基づいて、振興会の発起人および初期構成員の一覧として筆者が作成したもので、通番、発足時の役職名、学位・官位・職名など、氏名について示した。また初期構成員については、理事25名、監事4名、評議員114名のことで、理事を「executive director」のE、監事を「inspector」の頭文字I、評議員を「councilor」の頭文字Cで示した。これを見ると、発起人には学・政・財・軍・官界からの有力者405名が集まったことがわかり、その中から例えば、大阪帝国大学総長の長岡半太郎や東北帝国大学総長の本多光太郎など学界の各分野の有力者、住友合資会社総理事の小倉正恒や三菱合資会社総理事の木村久壽彌太など財界の有力者、特許局長官や文部次官など政界官界の有力者、陸軍や海軍の上層部などが同会の役職につき運営にあたったことがわかる。

3. 考察と今後の課題

本稿では櫻井錠二の学術振興関連史料の体系化とそれらのうち重要資料の抽出を試みた。その結果、櫻井自身が保管した振興会設立に関する資料が公文書を中心として明らかになった。また、櫻井のそれぞれの機関での役割、つまり帝国学士院の院長および学術研究会議の一員、第3回汎太平洋学術会議の開催に議長として携わったこと、振興会の設立を主導して理事長という役職についていたことが示された（表1および表2）。さらに、櫻井の学界を始め政財界とのネットワークの一端が明らかになり、櫻井が帝国学士院・学術研究会議で築いた人脈を振興会設立に生かしたことが推定できた（表1～3）。

以上の結果を一つの足がかりとして、今後は、櫻井の学界・政財

界を中心としたネットワークの全容、櫻井の学術振興および人材養成に関する思想や活動、当該組織設立や運営の詳細などを明らかにすることなどが可能となろう。また、さらに櫻井の日記や英国に残されていると推定される資料などの発見につなげ、櫻井資料一覧の補完をめざしたい。本稿がすでに化学史行われてきている櫻井に関する研究群に対して、資料提供あるいは発案の一助となり、化学史や科学技術政策史における研究が発展することを願う。

引用・参考文献

廣田鋼藏 (1988) 『明治の化学者：その抗争と苦渋』東京化学同人
 菊池好行 (2004) 「桜井錠二とイギリス人化学者コネクション」『化学史研究』Vol.31, 239-267
 Y., Kikuchi (2006) “The English Model of Chemical Education in Meiji Japan: Transfer and Acculturation (PhD Thesis, The Open University [UK])
 日本学術振興会 (1934) 『日本学術振興会要覧』, 日本学術振興会

日本学術振興会編 (1998) 『日本学術振興会 30 年史』, 日本学術振興会
 日本学士院 (1962) 『日本学士院八十年史 本編』, 日本学士院
 阪上正信 (1979) 「桜井錠二博士とその関係諸資料について」『化学史研究』Vol. 11, 3-13
 阪上正信 (1997) 「西洋近代科学の移植・育成者: 桜井錠二」『化学史研究』Vol. 24, 157-168
 櫻井錠二 (1940) 『思出の数々 男爵櫻井錠二遺稿』, 九和会

附記

本稿の作成において、貴重な資料の提供およびご助言をいただいた山本和子氏 (九和会) と日本学士院、日本学術振興会の各位に感謝申し上げる。

表 1 日本学士院所蔵櫻井文書一覧

帝国学士院関連			
資料番号	日付	項 目	資料形態
IA1	1918.xx.xx	大正七年倫敦及巴里ニ開催セラレタル 聯合学士院代表者ノ 会議ニ関スル報告	帝国学士院会員 理学博士 櫻井錠二提出
IA2	1922.4.xx	帝国学士院一覧 (大正 11 年)	
IA3	1922.4.xx	帝国学士院会員録 (附 役員及職員)	
IA4	1922.xx.xx	大正十一年度予算ニ帝国学士院代表委員海外派遣費及専務書記俸給計上方ニ関スル件	文部省用箋手書原稿 9 頁
IA5	1922.xx.xx	大正十一年度帝国学士院費増額要求ノ件	封筒に「清書シタルトキハ原稿ヲ返シテ下サイ」とあり
IA6	1926.4.7	安達岡臺宛書簡原稿	帝国学士院 櫻井錠二
IA7	1926.4.12	安達岡臺宛書簡原稿 続き	
IA8	1926.5.16	帝国学士院第 16 回授賞式演説	帝国学士院用箋, 原稿.
IA9	1928.4.14	帝国学士院第 18 回授賞式演説	帝国学士院用箋, 推敲原稿.
IA10	1930.5.15	帝国学士院第 20 回授賞式演説	推敲原稿.
IA11	1930.9.27	祝辞 北海道帝国大学ニ理学部開設セラレタルニ至リタルハ	手書原稿
IA12	1931.4.22	「学術興国」に注がるる大御心 近く櫻井博士お召	「国民新聞」記事切抜
IA13	1931.4.30	学術研究ノ振興 (昭和 6 年 4 月 30 日御進講)	手書原稿 30 頁
IA14	1931.4.24	天皇陛下御進講「学術振興ニ就テ」昭和六年四月三十日午後二時ヨリ	和紙墨書, 封筒付, 侍従長鈴木貫太郎発信
IA15	1932.5.10	帝国学士院第 22 回授賞式櫻井院長の演説	帝国学士院用箋
IA16	1932.8.20	官専 306 号 学術振興御奨励ノ思召 通牒 (写), 基金百五十万円御下賜 (宮内大臣から文部大臣宛) 添付	文部省発信, 学術研究振興会代表者櫻井宛
IA17	1933.5.11	帝国学士院第 23 回授賞式演説	帝国学士院用箋, 推敲原稿.
IA18	1934.5.11	帝国学士院第 24 回授賞式ニ於ケル櫻井院長ノ演説	帝国学士院用箋

IA19	1935.5.13	帝国学士院第 25 回授賞式ニ於ケル櫻井院長ノ演説	帝国学士院用箋
IA20	1938.12.12	挨拶 日独交換教授オットー・ケルロイタ博士を迎えて	帝国学士院長として、
IA21	1938.3.12	賀烟波三宅先生九十初度之序	帝国学士院長として、
IA22	1938.5.13	帝国学士院第 28 回授賞式に於ける櫻井院長の演説	帝国学士院用箋
学術研究会議 (National Research Council) 関連			
資料番号	日付	項 目	資料形態
NRC1	1920.xx.xx.	「学術研究会議ノ設置ニ関スル建議案」	ガリバン印刷, 朱校正あり.
NRC2	1920.xx.xx.	「大正九年度学術研究会議予算概算計算書」	櫻井手書き原稿
NRC3	1920.xx.xx.	「大正九年度学術研究会議予算概算計算書」	NRC2 と同一内容. 櫻井メモ: 「当初学士院ヨリ提出シタルモノ」
NRC4	1920.8.26	勅令第 297 号 学術研究会議官制	櫻井メモ: 「昭和二年六月十六日 勅令第百七十二号ヲ以テ改正」
NRC5	1920.xx.xx.	同上に関する経緯報告	文部省用箋, 手書き 4 頁. 帝国学士院幹事としての挨拶原稿.
NRC6	1920.12.10	「学術研究会議成立ニ至迄ノ経過報告」	文部省用箋, 手書, 帝国学士院幹事 (櫻井) として提出
NRC7	1921.9.1	「学術研究会議便覧」	B6 冊子
NRC8	1922.xx.xx.	大正十一年度学術研究会議費	文部省用箋 手書 1 頁
NRC9	1929.7.27	日本学術協会 祝辞 (控)	帝国学士院長・学術研究会議会長として.
NRC10	1930.11.1	日本学術協会 祝辞 (控)	帝国学士院長・学術研究会議会長として.
NRC11	1931.5.7	「学術研究ノ振興ニ関スル建議」 (内閣総理大臣 若槻礼次郎・大蔵大臣井上準之助・文部大臣田中隆三宛)	B5 薄紙 学術研究会議用箋活字印刷 3 頁
NRC12	1932.11.1	「独逸の科学は何故に進歩せるか」 独逸在留中技師堀岡正家氏からの独逸科学進歩の現況報告書	書簡, 通信省電気試験所密田良太郎発信, 学術研究会議 櫻井宛.
NRC13	1933.1.18	「独逸に於て特許発明を実際化する機関に就いて」 在独技師よりの報告書	通信省電気試験所密田良太郎発信.
NRC14	1934.3.6	S9.2.14 ノ皆既日食観測隊帰京歓迎会兼晩餐会席上挨拶原稿	学術研究会議 B5 用箋手書 5 頁 (1 部英文)
NRC15	1934.3.7	同 時事新報	記事切抜
NRC16	1935.10.22	「日本学術協会第十一回大会開会式ニ於ケル祝辞」	
NRC17	1937.2.15	「欧州各国出張ニ際シ天皇・皇后両陛下ニ拝謁並ニ賢所参拝許可通知」 添付: 参内通知状 (写)	文部大臣官房秘書課長発信 宮内大臣・皇后大夫発信
NRC18	1937.7.30	欧州各国出張報告	学術研究会議 B5 用箋手書 4 頁
NRC19	日付不詳	「学術研究会議ニ関スル欧文往復書類目録」および欧文書簡	文部省用箋 B5 3 頁, National Research Council 封筒に添え書き
第三回汎太平洋学術会議 (The Third Pan-Pacific Science Congress) 関連			
資料番号	日付	項 目	資料形態
intl.1	1896.7.xx	第 1 回万国会議参列者調査結果: 在独国留学生 理学博士 長岡半太郎・在独国留学生 医学士 大澤岳太郎	文部省用箋 4 頁こより綴じ (書記の墨書), 櫻井手書赤ペンメモ貼付: 「万国会議 (International Congress) ハ (後略)」
intl.2	1897.8.xx	加盟審議委員 13 人の氏名 (大澤謙二・小金井良精・三浦守治・菊地大麓・山川健次郎・櫻井錠二・蓑作佳吉・松村任三・横山又次郎・長岡半太郎・森田茂吉・飯島 魁・田中稲城)	

intl.3	1898.7.xx	第2回万国会議参列者（在独国留学生 理工科大学教授 山口 鋭之助）	
intl.4	1899.5.xx	目録編纂委員 13 人の氏名（大澤謙二・山川健次郎・櫻井錠二・養作佳吉・小藤文次郎・小金井良精・飯島 魁・三浦守治・藤澤利喜太郎・松村任三・横山又次郎・田中稻城・長岡半太郎）	
intl.5	1922.12.xx	「万国学術研究会議第2回総会に就いて」理学博士 櫻井錠二	A6 判 7 頁活字印刷冊子
intl.6	1922.12.15	「万国学術研究会議第2回総会に関する追加報告」櫻井錠二	文部省用箋自筆原稿 11 頁こより綴じ
intl.7	日付不詳	「第三回汎太平洋学術会議開催計画ノ大要」（下書き）	手書原稿 A6 判 1 頁
intl.8	日付不詳	同上 文部大臣宛書簡（下書き）	手書原稿 A6 判 2 頁
intl.9	1926.10.30 ～11.11	“Proceedings of the Third Pan-Pacific Science Congress Tokyo, 1926. (General Part)” 添付・会議参加者集合写真	
intl.10	1926.10.30 ～11.11	“Souvenir of the Third Pan-Pacific Science Congress, Tokyo, 1926. “	
intl.11	1926.11.12	Japan Times "Final Meeting of Science Congress Held Yesterday"	新聞記事
intl.12	1926.11.26	Japan Times "Future Success of Pan-pacific Science Meeting Assured With Establishment of Permanent Organization"	新聞記事

* 凡例：帝国学士院:IA, 学術研究会議:NRC, 国際会議:intl.

表2 日本学術振興会所蔵櫻井文書一覧

資料番号	日付	項 目	資料形態等
JSPS1	不明	「小委員会委員顔触」	A3 美濃半紙二つ折, 文部省印字, 黒枠原稿用紙 活字印刷
JSPS2	不明	「小委員会委員（イロハ順）」	A3 美濃半紙二つ折, 文部省印字, 黒枠原稿用紙 活字印刷
JSPS3	不明	「小委員会ニ委託スベキ事項」	A3 美濃半紙二つ折, 文部省印字, 黒枠原稿用紙 活字印刷
JSPS4	1932.5.3	「学術産業振興院ノ事業ニ関スル説明書（案）」	B4 ザラ紙二つ折 アオヤキ 19 頁, ホチキス留め
JSPS5	1932.5.xx	「学術産業振興院設立案 趣意書・計画書・説明書 案」	B4 ザラ紙二つ折 ガリ版印刷 50 頁, 糸とじ
JSPS6	1932.7.8	学術産業振興院設立趣旨説明会出席案内: 櫻井錠二・財部 彪 連名, 宛先: 林 春雄・林 毅陸・小野塚喜平治・大河内正敏・吉田豊彦・武田秀雄・田丸節郎・都築熊七・松岡均平・牧田 環・古市公威・藤澤利喜太郎・阿部謙一・斯波忠三郎・平賀 譲	B5 薄紙 学術研究会議用箋 2 頁 会場 上野公園内 帝国学士院会館（鉄道線路側崖上両大師前）手書きメモ: 「○印ハ当日欠席者 右ノ外石井茂助・（石丸優三欠席）櫻井時雄出席」（○: 吉田・筑紫・古市・斯波）
JSPS7	1932.7.15	昭和七年七月十五日学振会財部会 原稿	直筆, B5 文部省学術研究会議用箋緑色縦枠原稿用紙 7 頁
JSPS8	1932.7.15	学術研究振興会実行委員 選定等 原稿	直筆, B5 文部省学術研究会議用箋緑色縦枠原稿用紙 1 頁
JSPS9	不明	学術研究振興会実行委員・学術産業振興院主唱志・連合会記事概要 原稿	直筆, B5 文部省学術研究会議用箋緑色縦枠原稿用紙 2 頁
JSPS10	1932.7.15	「学術振興会ニ関スル経過摘録」	A3 美濃半紙二つ折東京工業大学用箋, 青枠原稿用紙活字印刷 6 頁（除く表・裏表紙）

JSPS11	1932.8.6	「學術振興院事業費ノ概要並財源ニ関スル調」	B4 ゼラ紙ニつ折アオヤキ 7 頁, ホチキス止め
JSPS12	不明	「學術研究振興案協議会ニ関スル件」 (草案)	A3 美濃半紙ニつ折, 活字青色印刷 5 頁. 手書き訂正箇所多数あり.
JSPS13	1932.8.10	「學術研究振興交付金下付申請書」(學術研究振興会代表者櫻井錠二発信, 文部大臣鳩山一郎宛)	A3 美濃半紙ニつ折, 活字印刷
JSPS14	1932.8.11	「経費充当金二万円交付 指令書 学研専三号」(文部大臣鳩山一郎発信, 學術研究振興会代表者櫻井錠二宛)	A4 文部省印字公用薄紙 活字印刷
JSPS15	1932.8.11	「依命通牒 学研専三号」(文部省専門学務局長赤間信義発信, 學術研究振興会代表者宛)	文部省印字 A3 美濃半紙ニつ折り, 活字印刷
JSPS16	不明	「予算書 學術振興調査費 (第 62 回帝国議會協賛)」	A3 美濃半紙ニつ折, 活字青色印刷
JSPS17	1932.8.20	御下賜金 150 万円・文部省予算より 20 万円交付の報告 ・(写) 文部大臣 発信 宮内大臣宛 ・(写) 宮内大臣 一木喜徳郎発信 文部大臣 鳩山一郎宛 ・サンプル一式送付	・巻紙式活字印刷 ・A4 ざら紙活字印刷 1 頁 ・通牒 A3 ざら紙ニつ折, 活字印刷 2 頁 学芸課長石丸優三のメモ付き.
JSPS18	不明	「謹話 鳩山文部大臣」	A3 ゼラ紙ニつ折, 活字印刷 2 頁. メモ: 「朝見式 昭和元年十二月二十八日」
JSPS19	1932.8.21	「救療と學術御奨励 けふ御下賜金」 「財界有力者に寄付金を懇請」	新聞切り抜き (東京日日新聞)
JSPS20	1932.8.21	「聖恩に感泣 櫻井博士談」	新聞切り抜き
JSPS21	1932.8.20	補助金下賜指令所 (写) 御下賜金交付通牒 宮内大臣官房秘書課	官発第四一九号 (写) 添付
JSPS22	1932.9.20	鳩山文部大臣主催 學術研究振興協議会 (於東京會館) に於ける挨拶文原稿	A3 美濃半紙ニつ折, 文部省印字赤縦枠原稿用紙 9 頁
JSPS23	1932.9.20	第一回打合会招待者名簿	A3 美濃半紙ニつ折, 活字印刷 5 頁
JSPS24	不明	「日本學術振興会ノ設立ニ就テ」	A3 美濃半紙ニつ折, 活字印刷, ホチキス留め. 學術研究会議會長 櫻井錠二.
JSPS25	不明	「日本學術振興会設立趣意書」	A3 わら半紙ニつ折, 活字印刷 7 頁 (除く表紙), こより綴じ. 2 冊.
JSPS26	不明	「日本學術振興会寄附行為」	A3 わら半紙ニつ折, 活字印刷 9 頁 (除く表紙), こより綴じ. 2 冊.
JSPS27	不明	「日本學術振興会発起人名簿」	A3 わら半紙ニつ折, 活字印刷 34 頁 (除く表紙), こより綴じ. 405 名.
JSPS28	不明	「日本學術振興会役員名簿」	A3 わら半紙ニつ折, 活字印刷 14 頁 (除く表紙), ホチキス留め
JSPS29	不明	「日本學術振興会会計取扱手続」	A3 美濃半紙ニつ折, 活字印刷 20 頁, ホチキス留め
JSPS30	不明	「日本學術振興会基本財産管理規程」 (案)	A3 わら半紙ニつ折, 活字印刷二頁 (除く表紙) ホチキス留め
JSPS31	不明	「昭和七年度日本學術振興会歳入歳出予定計算書」	
JSPS32	不明	「日本學術振興会名簿」	29 頁印刷, こより (紙燃) 綴じ
JSPS33	S7.12.**	設立準備委員総代九名連名 (推薦人宛) 発起人・評議員承諾願い (理事候補者宛) 発起人・評議員承諾願い 追伸 (理事就任依頼)	・巻紙式, 活字印刷

JSPS34	1932.12.6	第二回打合会挨拶原稿（於東京會館）	A3 美濃半紙二つ折,文部省印字赤縦枠, 原稿用紙 8 頁.
JSPS35	1932.12.6	第二回打合会招待者名簿	A3 美濃半紙二つ折,活字印刷 5 頁
JSPS36	1932.12.16	斎藤総理大臣挨拶文	A3 ザラ紙二つ折,活字印刷 4 頁
JSPS37	1932.12.16	鳩山文部大臣挨拶文	A3 ザラ紙二つ折,活字印刷 4 頁
JSPS38	1932.12.16	「総理大臣招待者名簿」	A3 ザラ紙二つ折,活字印刷 21 頁. 出欠記入有り.
JSPS39	不明	「学術振興組織準備臨時委員会」 「組織例」	A3 ザラ紙縦置き横書きガリバン刷り 4 頁. 準備委員用資料.
JSPS40	1933.1.13	第一回理事会(昭和八年一月十六日) 開催通知	振興会から櫻井理事長宛
JSPS41	1933.3.28	「日本学術振興会第一回学術部委員総会ニ於ケル挨拶」	草稿.
JSPS42	1933.3.29	「日本学術振興会第一回評議員会ニ於ケル櫻井理事長ノ挨拶」	A3 美濃半紙二つ折,活字印刷. 文書中の下線は櫻井手書きメモ.
JSPS43	1933.4.18	秩父宮総裁の総会ご臨席通知（常置委員会委員宛）	はがき判
JSPS44	1933.5.10	秩父宮総裁 総会御入来案内（内務次官 伯爵 前田利男 発信）	秩父宮御しるし入りはがき判, 同封筒
JSPS45	1933.5.12	総会・午餐御召状（理事長 櫻井錠二 発信）	はがき判
JSPS46	1933.5.12	総会・午餐御召状 理事 幹事 常置委員会委員長宛追申付（理事長 櫻井錠二 発信）	はがき判
JSPS47	1933.5.12	社説「わが学術発達の努力」	新聞切り抜き（東京日日新聞）.
JSPS48	1933.4.18	奉戴ノ儀御報告通知（理事長名, 日本学術振興会評議員宛・学術部常置委員会委員宛・発起人宛）	
JSPS49	1933.5.6	奉戴式案内状（会長名, 日本学術振興会評議員宛・学術部常置委員会委員宛・理事宛・発起人宛）	
JSPS50	1933.5.6	奉戴式後賜餐御召状別便送付通知・出欠回報	理事長名
JSPS51	1933.5.22	秩父宮殿下奉戴式一式書類：（昭和 8 年 5 月 22 日, 於日本工業倶楽部）総裁秩父宮殿下奉戴式参列員名簿, 総裁奉戴式注意, 総裁奉戴式次第, 賜餐場会場見取図, 賜餐場食卓配置略図, 午餐メニュー, 座席名札（櫻井理事長）	日本学術振興会封筒付
JSPS52	1933.6.29	「六月二十九日大阪倶楽部ニ於ケル懇談会」案内状発送先	A3 美濃半紙二つ折,活字印刷 5 頁
JSPS53	1933.6.29	「日本学術振興会懇談会出席者芳名」（昭和 8 年 6 月 29 日正午, 於大阪倶楽部）	B5 ザラ紙,活字印刷 5 頁
JSPS54	1933.8.xx	「趣意賛同援助懇願書」 添付書類：「日本学術振興会設立趣意書」, 「日本学術振興会寄付行為」, 「趣意賛同申込書」および領収書, 寄付金振込用書類	会長 斎藤 實・理事長 櫻井錠二連名
JSPS55	1933.10.xx	寄付金募集懇願書（内帑金御下賜及び政府よりの補助金交付報告記載）	印刷巻紙
JSPS56	1933.11.17	「講演」日本学術振興会に就いて 日本学術振興会理事長 枢密顧問官 理学博士 櫻井錠二	新聞切り抜き
JSPS57	1933.11.18	「学術振興会懇談会 昨夜豊平会の会合・一行小樽へ」	新聞切り抜き（東京日々新聞）
JSPS58	1934.3.xx	日本学術振興会要覧	

JSPS59		雑誌「科学」原稿	B4 ゼラ紙二つ折、活字印刷 1 頁、クリップ留め。手書きメモあり。
JSPS60	1934.5.9	「昭和九年五月九日総裁秩父宮殿下台臨 地方長官招待午餐会ニ措ケル齋藤会長ノ挨拶」	B4 ゼラ紙二つ折、活字印刷 2 頁
JSPS61		「昭和九年五月九日総裁秩父宮殿下台臨 地方長官招待午餐会ニ於ケル櫻井理事長ノ事業説明」	B4 ゼラ紙二つ折活字印刷 3 頁
JSPS62	1934.5.15	地方長官招待者への礼状	礼状＝はがき判、クリップ留め
JSPS63		同添付 会長挨拶・理事長挨拶	写し分。文言同上と同一。
JSPS64	1934.6.5	「日本学術振興会 役員一行けふ来熊 午後の急行で、直に市公会堂で懇談会」	新聞切り抜き (九州日々新聞)
JSPS65	1934.6.5	「日本学術振興会 有志懇談会 昨夜市公会堂にて」	新聞切り抜き (九州日々新聞)
JSPS66	1934.6.9	福岡市版 「櫻井博士・堂々一時間 会の沿革趣旨を述ぶ 日本学術振興趣旨普及懇親会 昨夜博商に名士多数集る」	新聞切り抜き
JSPS67	1934.6.xx	九州旅行日程表	B4 ゼラ紙印刷
JSPS68	1935.1.28	「写真在中」封筒・奉戴式の案内・ネガ 2 片・写真 8 枚	はがき大、写真
JSPS69	1935.10.22	「日本学術振興の使命」 日本学術振興会理事長 櫻井錠二講演	昭和 10 年 10 月 22 日金沢市開催の 日本学術協会 第 11 回大会に於いて
JSPS70	1935.12.28	理事委嘱書	B5 版日本学術振興会用箋 (厚)
JSPS71	1936.1.23	「昭和 11 年 1 月 23 日第 4 回委員総会ニ於ケル理事長櫻井錠二ノ挨拶」	B4 ゼラ紙二つ折活字横書き印刷 5 頁 パンチ穴あり
JSPS72	1936.3.14	昭和 11 年 3 月 31 日開催評議員会開催案内 (日本学術振興会理事長 櫻井錠二)	はがき判、同下挨拶原稿 クリップ留め
JSPS73	1936.3.31	晩餐会に於ける挨拶原稿 (昭和 11 年 3 月 31 日開催)	直筆, B5 日本学術振興会用 (茶色枠便箋) 2 頁。
JSPS74	1936.12.28	評議員委嘱書 (新会長廣田弘毅名)	B5 版日本学術振興会用箋 (厚)
JSPS75		雑誌「学術振興」第 5 号	表紙のみ 2 枚。
JSPS76	1937.4.30	ロンドン大学晩餐会に於ける櫻井錠二博士答辞大意訳文	B5 ゼラ紙 活字青色印刷。雑誌「学術振興」第 5 号掲載。
JSPS77	1938.1.22	「挨拶」昭和 13 年 1 月 22 日、日本学術振興会委員総会	B4 ゼラ紙二つ折活字横書き印刷 10 頁、パンチ穴あり。手書きメモあり。
JSPS78	1938.3.10	学術振興 第 7 号 (岩波書店)	
JSPS79	1938.7.1	学術振興 第 9 号 (岩波書店)	
JSPS80	1939.1.19	日本学術振興会第 7 回委員総会に於ける挨拶原稿	手書き原稿。理事長名。日本学術振興会用箋 (住所記載)
JSPS81	1939.3.1	学術振興 第 13 号 (岩波書店)	櫻井の逝去(S.14.1.28)後の日付。
JSPS82	1939.5.1	学術振興 第 14 号 (岩波書店)	櫻井の逝去(S.14.1.28)後の日付。
JSPS83	1939.5.25	ロンドン大学名誉学友に推薦された際、祝賀会席上にて乾杯辞に答えられたる挨拶写し送付状	B5 ゼラ紙、活字印刷。振興会調査課発信。櫻井の逝去(S.14.1.28)後の日付。

表 3 設立発起人と初期構成員

通番	役員	学位・官位・職名など	氏名
1	C	海軍技術研究所長	伊藤孝次

2	C	陸軍航空本部技術部長	伊藤周次郎
3	C	名古屋商工会議所会頭	伊藤次郎左衛門

4		法博，宮内大臣	一木喜徳郎
5	E/C	日本銀行監事	入江貫一
6		医博，日本医学会会頭	入澤達吉
7		男爵，三菱合資会社社長	岩崎小彌太
8		医博，九州帝国大学医学部長	板垣政参
9		小樽商工会議所議員	板谷宮吉
10		日本製鋼所取締役会長	磯村豊太郎
11	E/C	大阪商工会議所会頭	稲畑勝太郎
12		医博，満州医科大学長	稲葉逸好
13		工博，學術研究会議員	井上仁吉
14		工博，造船協会会長	今岡純一郎
15		理博，學術研究会議長	今村明恒
16		三井銀行常務取締役	池田成彬
17		理博，帝国学士院会員	池田菊苗
18		日本電力株式会社社長	池尾芳蔵
19		第一銀行頭取	石井謙吾
20	C	陸軍陸地測量部長	石井英橘
21	C	農林次官	石黒忠篤
22		帝国学士院主事	石丸優三
23		文部参与官	石坂豊一
24		医博，金沢医科大学長	石坂伸吉
25	C	理博，東京帝国大学地震研究所事務取扱	石本巳四雄
26		子爵，工博，日本鉱業会会長	井上匡四郎
27	C	横浜商工会議所会頭	井坂孝
28		法博，日本勸業銀行総裁	馬場鉄一
29		文部大臣	鳩山一郎
30		東北帝国大学教授	畑井新喜司
31	E/C	海軍中将	波多野貞夫
32		文博，國學院大学長	服部宇之吉
33		理博，徳川生物学研究所長	服部廣太郎
34	E/C	服部時計店社長	服部金太郎
35	C	南満州鉄道株式会社副総裁	八田嘉明
36		龍谷大学長	花田凌雲
37		原合名会社社長	原富太郎
38		法博，中央大学長	原嘉道
39		東京貯蓄銀行頭取	原邦造
40		医博，長崎医科大学長	林郁彦
41	E/C	医博，東京帝国大学医学部長	林春雄
42		宇治川電気株式会社社長	林安繁

43	E/C	法博，慶應義塾大学総長	林毅陸
44		伯爵，文博，南満州鉄道株式会社総裁	林博太郎
45		文博，京都帝国大学文学部長	羽田享
46		山サ醤油株式会社社長	濱口儀兵衛
47	C	日本石油株式会社社長	橋本圭三郎
48		燃料研究所長	伴義定
49		法博，関西大学長	仁保亀松
50		農博，法博，帝国学士院会員	新渡戸稲造
51		理博，東京帝国大学教授	西川正治
52		理博，京都帝国大学理学部長	西内貞吉
53		大阪商船株式会社社長	堀啓次郎
54		理博，京都帝国大学教授	堀場信吉
55		堀越合資会社代表社員	堀越角次郎
56		堀越商会主	堀越善重郎
57		侯爵，東京地学協会会長	細川護立
58	C	男爵，法博，東京帝国大学法学部長	穂積重遠
59		川崎第百銀行頭取	星埜章
60	E/C	理博，東北帝国大学総長	本多光太郎
61		上智大学長	ヘルマン・ホフマン
62		医博，京都帝国大学医学部長	戸田正三
63		農博，文部政務次官	東郷実
64		公爵，貴族院議長	徳川家達
65		侯爵，徳川生物学研究所主	徳川義親
66	C	男爵，法博，帝国学士院第一部長	富井政章
67	I	大蔵省理財局長	富田勇太郎
68		医博，新潟医科大学長	富永忠司
69		工博，東北帝国大学工学部長	抜山平一
70		文博，駒澤大学長	忽滑谷快天
71	C	工博，東京帝国大学航空研究所長	和田小六
72	C	東京計器製作所社長	和田嘉衡
73		工博，京都帝国大学教授	渡邊俊雄
74		貴族院議員	渡邊千代三郎
75		愛知銀行取締役頭取	渡邊義郎
76		工博，日本特殊鋼合資会社代表社員	渡邊三郎
77		貝島炭鉱株式会社社長	貝島太市
78	C	神戸商工会議所顧問	川西清兵衛
79		川崎定徳合資会社代表社員	川崎八右衛門

80		日華生命保険株式会社専務取締役	河合良成
81	I	文部大臣官房会計課長	河原春作
82		拓務次官	河田烈
83		法博，大阪商科大学長	河田嗣郎
84		工博，日本鉄鋼協会会長	河村驍
85		東洋毛糸株式会社社長	河崎助太郎
86		鴻池銀行常務取締役	加藤晴比古
87		理博，東京地質学会会長	加藤武夫
88	C	大倉組副頭取	門野重九郎
89		日本郵船株式会社社長	各務鎌吉
90		大阪瓦斯株式会社取締役会長	片岡直方
91		工博，日本エレベーター製造株式会社取締役社長	片岡安
92		医博，東京慈恵医科大学長	金杉英五郎
93		文博，九州帝国大学法文学部長	鹿子木員信
94		帝国教育会会長	鎌田榮吉
95		名古屋商工会議所常議員	神野金之助
96		工博，機械学会会長	加茂正雄
97		水産試験場長	春日信市
98		法博，明治大学長	横田秀雄
99	E/C	商工次官	吉野信次
100	C	海軍燃料廠長	吉岡保貞
101	E/C	陸軍大将	吉田豊彦
102		広島文理科大学長	吉田賢龍
103		工博，北海道帝国大学教授	吉町太郎一
104	C	工博，海軍技術研究所員	谷村豊太郎
105		医博，九州帝国大学温泉治療学研究所長	田原淳
106		農博，理博，北海道帝国大学理学部長	田所哲太郎
107	E/C	法博，早稲田大学長	田中穂積
108		田中鉱業株式会社社長	田中平八
109		衆議院議員	田中隆三
110		工博，東京帝国大学工学部長	田中芳雄
111		大日本人造肥料株式会社社長	田中榮八郎
112		理博，學術研究会議副会長	田中館愛橘
113		医博，名古屋医科大学長	田村春吉
114		医博，岡山医科大学長	田村於兔
115	C	理博，東京工業大学教授	田丸節郎
116		神戸商業大学長	田崎慎治

117		法博，立命館大学長	田島錦治
118		農博，同志社大学総長	大工原銀太郎
119		大蔵大臣	高橋是清
120		医博，千葉医科大学長	高橋信美
121		高取鉱業株式会社社長	高取盛
122	C	工博，電気試験所長	高津清
123		高野山大学長	高岡隆心
124		法博，農博，北海道帝国大学教授	高岡熊雄
125		理博，大阪市立工業研究所長	高岡齊
126		文博，東洋大学長	高楠順次郎
127		工博，帝国学士院会員	高松豊吉
128		理博，學術研究会議部長	高木貞治
129	E/C	海軍大将	財部彪
130		辰馬海上火災保険株式会社社長	辰馬吉左衛門
131		衆議院議員	俵孫一
132	C	工博，帝国学士院会員	俵國一
133	E/C	三菱造船株式会社相談役	武田秀雄
134		武田長兵衛商店社長	武田長兵衛
135		竹中工務店代表社員	竹中藤右衛門
136		神戸商工会議所顧問	瀧川儀作
137	C	文博，東京帝国大学教授	瀧精一
138	C	鐘ヶ淵紡績株式会社社長	津田信吾
139		東京計器製作所社長	津村重舍
140	C	工博，大阪工業大学長	堤正義
141		陸軍中将	筑紫熊七
142		東京商工会議所顧問	根津嘉一郎
143		京都瓦斯株式会社取締役	内貴清兵衛
144	E/C	理博，大阪帝国大学総長	長岡半太郎
145	C	医博，東京帝国大学伝染病研究所長	長與又郎
146		長瀬商会社長	長瀬富郎
147		拓務大臣	永井柳太郎
148		拓殖大学長	永田秀次郎
149	C	工博，三井鉱山株式会社目黒試験所長	中井四郎
150		前文部次官	中川健藏
151		石油共同販売所株式会社社長	中野忠太郎
152	C	工博，東京工業大学長	中村幸之助
153		医博，北海道帝国大学医学部長	中村豊
154	C	理博，帝国学士院会員	中村清二

155		東北帝国大学法文学部長	(空欄)
156	C	特許局長官	中松真卿
157		衆議院議員	中島知久平
158		男爵, 商工大臣	中島久萬吉
159		工博, 電気学会会長	納富磐一
160		鐘ヶ淵紡績株式会社相談役	武藤山治
161		貴族院議員	村山龍平
162		伯爵, 外務大臣	内田康哉
163		文博, 東京帝国大学文学部長	宇野哲人
164	C	資源局長官	宇佐美勝夫
165		法博, 貴族院議員	鵜澤聰明
166		薬博, 日本薬学会会頭	上野金太郎
167		大谷大学長	上杉文秀
168		衆議院副議長	植原悦二郎
169		農博, 九州帝国大学農学部長	植村恒三郎
170	I	理化学興業株式会社取締役	植村澄三郎
171	C	内務次官	潮恵之輔
172	C	工博, 製鉄所技監	野田鶴雄
173		工博, 旅順工科大学長	野田清一郎
174		野村合名会社社長	野村徳七
175		工博, 東京地下鉄道株式会社社長	野村龍太郎
176		日本窒素肥料株式会社社長	野口遵
177		高層気象台長	大石和三郎
178	C	侯爵, 啓明会理事長	大久保利武
179		電信電話学会会長	大畑源一郎
180	C	倉敷紡績株式会社社長	大原孫三郎
181		大林組株式会社社長	大林義雄
182	C	逓信次官	大橋八郎
183	C/I	東京商工会議所顧問	大橋新太郎
184	C	資源審議会委員	大川平三郎
185	E/C	子爵, 工博, 理化学研究所長	大河内正敏
186		横浜商工会議所顧問	大谷嘉兵衛
187	C	三菱電機株式会社常務取締役	大内愛七
188		男爵, 大倉組頭取	大倉喜七郎
189		工博, 建築学会会長	大熊喜邦
190	C	京都商工会議所会頭	大澤徳太郎
191		文博, 東京文理科大学長	大瀬甚太郎
192		農博, 京都帝国大学農学部長	大杉繁
193	C	法博, 商工省統制委員会委員	岡實
194	C	理博, 中央気象台長	岡田武松

195		海軍大臣	岡田啓介
196		名古屋商工会議所副頭取	岡谷惣助
197	C	神戸商工会議所会頭	岡崎忠雄
198	C	東邦瓦斯株式会社社長	岡本櫻
199		理博, 學術研究会議長	小川治
200	E/C	陸軍技術本部長	緒方勝一
201	C	海軍水路部長	小野彌一
202	E/C	法博, 東京帝国大学総長	小野塚喜平次
203		小倉石油株式会社社長	小倉常吉
204	E/C	住友合資会社総理事	小倉正恒
205		理博, 塩見理化学研究所長	小倉金之助
206	C	大蔵次官	黒田英雄
207		衆議院議員	久原房之助
208	C	鉄道次官	久保田敬一
209		久保田鉄工場株式会社社長	久保田權四郎
210		東京毛布株式会社取締役	窪田四郎
211		工政会常務理事	倉橋藤治郎
212		三菱銀行取締役会長	串田萬藏
213		工博, 照明学会会長	鯨井恒太郎
214		医博, 大阪帝国大学医学部長	楠本長三郎
215		法博, 帝国学士院会員	矢作榮藏
216		理博, 日本動物学会会頭	谷津直秀
217	C	陸軍次官	柳川平助
218	C	第一相互生命保険会社社長	矢野恒太
219	C	法博, 京城帝国大学総長	山田三良
220		山口玄合資会社代表社員	山口玄洞
221		山口銀行社長	山口吉郎兵衛
222		山下合名会社代表社員	山下龜三郎
223	C	三菱鉱業研究所長	山下元美
224		鉄道省工作局長	山下興家
225		工博, 早稲田大学教授	山本忠興
226		男爵, 内務大臣	山本達夫
227		衆議院議員	山本悌二郎
228		法博, 京都帝国大学経済学部長	山本美越乃
229		衆議院議員	山本条太郎
230		工博, 東京帝国大学教授	八木秀次
231		住友銀行取締役会長	八代則彦
232		三井物産株式会社常務取締役	安川雄之助
233		安川電機製作所株式会社社長	安川清三郎
234		安田保善社総長	安田善治郎

235		工博，貴族院議員	眞野文二
236		衆議院議員	町田忠治
237		薬博，大阪衛生試験所長	町口英三
238		理博，日本化学会会長	松井元興
239		理博，東京帝国大学理学部長	松原行一
240	E/C	男爵，法博，貴族院議員	松岡均平
241	C	工博，鉄道大臣官房研究所長	松縄信太
242		臨時産業審議会委員	松永安左衛門
243	C	九州帝国大学総長	松浦鎮次郎
244		理博，京都帝国大学教授	松山基範
245	C	若松筑豊石炭工業組合長	松本健次郎
246	C	法博，帝国学士院会員	松本丞治
247		大日本ビール株式会社社長	正木直彦
248		帝国美術院長	馬越恭平
249	E/C	工博，三井合名会社理事	牧田環
250	C	不動貯金銀行頭取	牧野元次郎
251		理博，東北帝国大学教授	眞島利行
252		男爵，三井合名会社相談役	益田孝
253		大同電力株式会社社長	増田次郎
254	C	薬博，東京帝国大学教授	慶松勝左衛門
255		男爵，工博，帝国学士院会員	古市公威
256		男爵，古河合名会社社長	古河虎之助
257		日清汽船株式会社常務理事	深尾隆太郎
258		三井合名会社常務理事	福井菊三郎
259		大正大学長	福田堯顕
260		豊国セメント株式会社社長	福澤桃介
261		藤井保全合名会社社長	藤井善助
262	C	大蔵省主計局長	藤井眞信
263	C	王子製紙株式会社社長	藤原銀次郎
264	C	海軍次官	藤田尚徳
265		林博，林業試験場長	藤岡光長
266		大日本製糖株式会社社長	藤山雷太
267	E/C	理博，帝国学士院会員	藤澤利喜太郎
268		公爵，貴族院副議長	近衛文麿
269		理博，東北帝国大学理学部長	小林巖
270		小西新兵衛商店代表取締役	小西新兵衛
271		本小曾根合資会社代表社員	小曾根喜一郎
272		司法大臣	小山松吉
273		理博，京都帝国大学教授	小松茂
274	C	工博，東京工業試験所長	小寺房治郎

275		理博，学術研究会議員	五島清太郎
276		農林大臣	後藤文夫
277		正金銀行頭取	兒玉謙二
278		男爵，鴻池合名会社代表社員	鴻池善右衛門
279	C	男爵，日本商工会議所会頭	郷誠之助
280		東京府知事	香坂昌康
281		農博，日本農学会会長	古在由直
282		農博，大原農業研究所長	近藤萬太郎
283	C	海軍航空廠長	枝原百合一
284		岸和田紡績株式会社社長	寺田甚吉
285		理博，東京帝国大学教授	寺田寅彦
286		医博，倉敷労働科学研究所長	暉峻義等
287		大阪商工会議所顧問	阿部房次郎
288		北海道帝国大学工学部長	阿久津國造
289		大阪商工会議所副会頭	安宅彌吉
290	C	三井合名会社常務理事	有賀長文
291	C	外務次官	有田八郎
292	E/C	文部次官	栗谷謙
293		千代田火災保険株式会社監査役	赤星鐵馬
294	E/C	文部省専門学務局長	赤間信義
295		医博，熊本医科大学長	明石眞隆
296		工博，九州帝国大学工学部長	荒川文六
297		陸軍大臣	荒木貞夫
298	C	愛知時計電機株式会社社長	青木謙太郎
299		工博，火兵学会会長	青木保
300	C	文博，帝国学士院幹事	姉崎正治
301		侯爵，日本学術協会会長	浅野長勳
302		浅野セメント株式会社社長	浅野聰一郎
303		医博，京都府立医科大学長	浅山忠愛
304		嘉徳銀行頭取	麻生太吉
305		農博，東京帝国大学農学部長	麻生慶次郎
306		薬博，東京帝国大学教授	朝比奈泰彦
307		衆議院議長	秋田清
308		法博，法政大学長事務取扱	秋山雅之助
309	C	日本産業株式会社社長	鮎川義介
310	C	農博，農事試験場長	安藤廣太郎
311		子爵，内閣総理大臣	齋藤實
312		齋藤報恩会理事長	齋藤善右衛門
313		医博，栄養研究所長	佐伯矩
314	C	医博，帝国学士院第二部長	佐藤三吉

315	C	医博，佐多医院研究所長	佐多愛彦
316		法博，東京商科大学長	佐野善作
317	C	男爵，法博，帝国発明協会会長	阪谷芳郎
318		理博，東京天文台長	早乙女清房
319	E/C	理博，帝国学士院長	櫻井錠二
320		衆議院議員	櫻内幸雄
321		薬博，東京衛生試験所長	衣笠豊
322		工博，京都帝国大学化学研究所長	喜多源逸
323		応用製薬株式会社取締役	喜谷市右衛門
324		衛生工業協会会長	北浦重之
325	C	医博，北里研究所長	北島多一
326		医博，東北帝国大学医学部長	木村男也
327	C	三菱合資会社総理事	木村久壽彌太
328		理博，京都帝国大学教授	木村正路
329		理博，緯度観測所長	木村榮
330		立教大学長	木村重治
331		農博，東京農業大学長	吉川 輝
332		工博，大日本紡績株式会社社長	菊池恭三
333		医博，京都帝国大学教授	清野謙次
334		海軍火薬廠長	岸本肇
335		岸本汽船株式会社社長	岸本兼太郎
336		陸軍造幣廠長官	岸本綾夫
337		地質調査所長	金原信泰
338		日本興業銀行総裁	結城豊太郎
339		工博，土木学会会長	名井九介
340		鉄道大臣	三土忠造
341		丸見屋商店主	三輪善兵衛
342		理博，日本植物学会会長	三好學
343		三菱合資会社常務理事	三好重道
344		男爵，三菱鉱業株式会社取締役会長	三谷一二
345		工博，特許局技師	三山喜三郎
346		三菱商事株式会社取締役会会長	三宅川百太郎
347		御木本真珠店主	御木本幸吉
348		司法次官	皆川治廣
349		通信大臣	南弘
350	C	農博，北海道帝国大学総長	南鷹次郎
351		法博，京都帝国大学法学部長	宮本英雄
352	C	男爵，工博，貴族院議員	斯波忠三郎
353		三菱航空機株式会社取締役会長	斯波孝四郎

354		男爵，安田保善社理事	四條隆英
355		理博，東京帝国大学教授	柴田桂太
356		理博，東京帝国大学教授	柴田雄次
357		内閣書記官長	柴田善三郎
358	C	三共株式会社社長	鹽原又策
359		医博，日本医科大学長	鹽田廣重
360		古河電気工業株式会社特殊塗料製造所長	鹽見勉
361		富士瓦斯紡績株式会社専務取締役	鹿村美久
362	C	日本鋼管株式会社社長	白石元治郎
363		三菱造船研究所長	莊田達彌
364		工博，工業化学会会長	莊司市太郎
365	C	島津製作所株式会社社長	島津源藏
366	C	子爵，澁澤同族株式会社社長	澁澤敬三
367		工博，學術研究会議部長	澁澤元治
368	C	文博，台北帝国大学総長	幣原担
369		清水組合資会社社長	清水釘吉
370		京都大丸株式会社社長	下村正太郎
371	C	法博，商工省統制委員会委員	下村宏
372		仁寿生命保険株式会社社長	下郷博平
373	C	東京電気株式会社研究所長	新開廣作
374	E/C	理博，京都帝国大学総長	新城新藏
375		関西学院大学長	シーゼー・エル ベーツ
376		広海商事株式会社社長	廣 二三郎
377		鹿島銀行頭取	廣岡恵三
378		日本生命株式会社社長	弘世助太郎
379		日本銀行総裁	土方久徴
380		平井同族株式会社取締役	平井仁平衛
381		玉川電鉄株式会社社長	平沼亮三
382		男爵，法博，日本大学総長	平沼騏一郎
383	C	工博，東京帝国大学教授	平賀讓
384		農博，蚕業試験場長	平塚英吉
385		理博，測地学委員会会長	平山信
386		理博，日本数学物理学会委員長	平山清次
387	C	陸軍科学研究所長	久村種樹
388		富士紡績株式会社社長	日比谷平左衛門
389		工博，京都帝国大学工学部長	本野亨
390		貴族院議員	本山彦一
391	C	工博，日華紡績株式会社取締役	持田巽

392		安田銀行副頭取	森廣藏
393		法博，東京帝国大学経済学部長	森莊三郎
394		工博，土木試験所長	物部長穂
395		理博，東京帝国大学教授	妹澤克惟
396	C	宮内次官	關屋貞三郎
397		立正大学長	關本龍門
398		農博，北海道帝国大学農学部長	須田金之助
399	E/C	海軍艦政本部長	杉政人
400		工博，住友伸銅銅管株式会社技師長	杉浦稠三
401		男爵，住友合資会社社長	住友吉左衛門
402		鈴木商店社長	鈴木忠治
403	C	陸軍大將	鈴木孝雄
404		農博，京都帝国大学教授	鈴木文助
405	C	農博，東京帝国大学教授	鈴木梅太郎

＊凡例：C：評議員，E：理事，I：監事
 (振興会所蔵資料より筆者作成.)